

2017 年度 AOYAMA VISION

「スポーツキャリアを活かし今後の社会に貢献する人材を
育成する研究・教育プログラムの開発」

実施報告書

2018 年 4 月 30 日

1. はじめに

超高齢化社会を今後維持するためには健康寿命を延伸し、高齢者においても生きがいを保てる「健康コミュニティ」を作り上げる必要がある。スポーツはその解決のキーとなるものであり、今後スポーツに関連した新たな職種、人材が社会において必要とされることが予想される。一方、大学アスリートのセカンドキャリアはこれまで画一かつ限定的であり、スポーツを通じて得られた知識や経験が必ずしも活かされていない。本プロジェクトは、産官学地域連携により、大学アスリートのセカンドキャリアの新しい形を提案する教育開発プログラムである。

既に2015年度から社会情報学部の教育・研究プロジェクトとして相模原キャンパスにおいて「スポーツキャリアプログラム」を実施してきたが、その過程において、前述の目的を達成するための教育プログラムを本学において完成する上での課題を発見、整理することができた。そこで、2017年度は、「サーバント・リーダーの育成」を謳うAOYAMA VISIONの視点に立ち戻り、次年度以降に青山学院発の大学アスリート人材育成プログラムを完成させるための組織づくりや新たな教育研究の実施を試みることにした。

2. 最終ゴール

当初の目的遂行のために以下のことを、スタンダード教育機構やスポーツ支援課等とも協力関係を築きながら実施し、次年度以降の全学的取組への展開を図ることを目標とする。

- (1) 企業との連携強化、受講学生の利便性の拡大を図るために相模原キャンパスと青山キャンパス所属学生両者が履修可能なシステムを構築する。
- (2) 教育プログラム充実のため外部人材をも含む会議体を発足（ここでは教育プログラムのみならず広範囲なスポーツ振興策を検討）、運営する。
- (3) 新規性のある教育開発をするための研究を外部機関と協力を図りながら実施する。特にデータを活用した「インテリジェントスポーツ」を確立するための研究を実施する。
- (4) 上記研究ともリンクした集中講義・演習を主体とした新「スポーツキャリアプログラム」としてのカリキュラムの開発と実施⇒全学的なプログラムへの移行を目指す

3. 今年度の到達目標

- (1) プロジェクト運営のための会議体を発足させ、月1回程度の会議を定期的実施する
- (2) 教育プログラムの基本コンテンツとなる研究の実施する（コンディショニング方法に関するエビデンス収集等）
- (3) 講義科目のeラーニング化に向けた基盤を作る

4. プロジェクト組織

本プロジェクトを遂行するため、以下のように、本学教員の他、学内および、学外スタッフによる運営委員会を組織した。

(1) 教員

社会情報学部	学部長	稲積 宏誠
同	教授	苅宿 俊文
同	特任教授	佐藤 敏彦

(2) 事務

スポーツ支援課	課長	海野 大輔 佐藤 良 長谷川恒平
---------	----	------------------------

(3) 体育会

陸上競技部長距離部門	監督	原 晋
------------	----	-----

(4) フィットネスセンター

ディレクター	吉本 完明 大貫 英夫 渡辺 利信
--------	-------------------------

(5) 特別研究員等

スポーツイベント研究所	上席研究員	太田 正治
Ippo 株式会社	代表取締役	河野 景介
株式会社 アトラエ人事		清水 謙
北里研究所病院総合スポーツ 医学センター	副センター長	田畑 尚吾
株式会社海外需要開拓支援機構	統括部長	長井 延裕
株式会社スポーツモチベーション	最高技術責任者	中野ジェームス修一
慶應義塾大学大学院 SDM 研究所	研究員	永野 智久
株式会社ユーフォリア	代表取締役	橋口 寛
(株) アスリートプランニング 新規事業推進部	リーダー	原田俊一郎
ウエルネスデータ株式会社	代表取締役	星野 栄輔
株式会社ビズリーチ	マネージャー	見藤 潤
スマートメディカル株式会社	担当課長	山崎はずむ

5. 運営委員会の実施

2017年度中に以下のように6回の運営委員会を実施した。

(1) 第1回運営委員会

日 時：2017年5月31日（水）18時～20時

場 所：総研ビル8F第11会議室

議 事：スポーツキャリアプログラムの目的、今後の予定を討議した。

one-tap sportsの取組事例紹介の後、学内展開の方法を討議した。

(2) 第2回運営委員会

日 時：2017年6月26日（月）18時～20時

場 所：総研ビル8F第11会議室

議 事：前期演習の内容・進め方について討議した。

one-tap sports等によるクラブ支援の方法について討議した。

スポーツ支援課の活動について報告があった。

(3) 第3回運営委員会

日 時：2017年7月24日（月）18時～20時

場 所：総研ビル9F第15会議室

議 事：前期演習の内容・進め方について討議した。

one-tap sports等によるクラブ支援の方法について討議した。

スポーツ支援課の活動について報告があった。

(4) 第4回運営委員会

日 時：2017年9月25日（月）18時～20時

場 所：総研ビル8F第11会議室

議 事：夏期に実施した健康スポーツキャリア演習A、スポーツビジネスキャリア演習A、陸上競技部用距離部門特別演習の実施報告の後、改善点等につき討議した

体育会支援状況につき報告があり、今後の進め方につき討議した。

スポーツ支援課よりNCAA事業の実施につき報告があった。

(5) 第5回運営委員会

日 時：2017年12月18日（月）17時半～19時半

場 所：総研ビル9F第15会議室

議 事：後期演習の実施内容について討議を行った。バスケットボール部の特

別演習を実施することとなった。

one tap sports の有効性評価等、教育に反映するための重点研究事業について、その進め方について討議した。

(6) 第6回運営委員会

日 時：2018年2月18日（月）18時～20時

場 所：17号館2階 スチューデントセンター奥会議室

議 事：後期演習のアンケート結果を元に今後の改善点等を討議した。

ホームページの改訂内容、方法について討議した。

6. スポーツキャリアプログラムで養成する人材像

体育会学生（大学生アスリート）の就職状況は一般の学生に比較し決して悪くはない。大学、スポーツの種類にもよるが、多くの学生は「打たれ強い」「行動力がある」等の体育会学生の「正のイメージ」を活かし、卒業後はスポーツとは関係のない企業へ就職する。しかしながら、実際に社会に出てアスリートとしての「強み」を活かして活躍できるかどうかについては個々の能力により大きなばらつきがあるのではないだろうか。

少子高齢化社会においてスポーツの果たすべき役割はますます大きく、また、その関わり方も多様である。スポーツ用品産業、スポーツ施設産業、スポーツサービス・情報産業といった伝統的なスポーツ産業企業のみならず、多くの企業でスポーツと健康に関わるビジネスに参入してきている。そのような中、スポーツの経験を活かしながら、これまでとは異なる視点で新たなスポーツビジネスにかかわる人材が社会で活躍する場が広がってきているといえる。

本プログラムでは、少子高齢化社会あるいは高度情報化社会に求められる能力として「情報分析能力」と「コミュニケーション能力」を取り上げ、スポーツとの関わりの中でこの二つの能力を伸ばすためのプログラム開発することを目指す。

7. 開発プログラムの基本コンセプト

青山学院大学で開発する本スポーツキャリアプログラム（AGU-SCP）では上記の2つの能力を有するアスリートを育成することを目的とするが、その開発にあたって以下のような基本コンセプトを定めた。1）体育会活動に役立つこと、即ち、個人やチーム力向上に寄与するものであること、2）卒業後のキャリアの選択の幅を広げるようなものであること、3）地域社会との関わりがあるものであること、4）産学連携によるものであること、5）本プログラム内で研究を実施し、その知見を教育に反映すること、等である。

これらのコンセプトに基づき、学内教員の他、産業界から特別研究員や非常勤講師を招聘し、体育会活動や地域における活動を通して情報分析能力やコミュニケーション能力を養えるような教育プログラム開発・実践する。

8. 現在の教育内容

教育プログラムは講義科目と演習科目からなるが、下記のように、これまでに9つの講義科目を用意している。基本的には講義は毎週決められた曜日、時限に実施し、前後期の半分の期間で、1単位または2単位を取得することになる。講義科目は演習を受講するための基本的知識を深めることを主な目的としている。

A. 講義科目（（1）～（3）は全15コマ2単位、（4）～（9）は1単位）

- (1) コミュニティーサービス
地域に存在する多様なニーズに対応したボランティア・市民活動などのサービスの在り方、その意味を学ぶ。
- (2) コミュニケーションデザイン実践
人と人とのコミュニケーションの在り方について議論し、さまざまなコミュニケーションの様式が存在とその意味を学ぶ。
- (3) ワークショップデザイン実践
協働的な学習の場としてワークショップデザインを取り上げ、そのデザインの構想にある他者理解と合意形成に関する専門的な知識と技能を学ぶ。
- (4) スポーツキャリア基礎 A
社会人として求められる基礎的な能力とは何かを学ぶ。
- (5) スポーツキャリア基礎 B
スポーツと社会の関係性について各企業で働く方々を非常勤講師として招いて講義を行う。
- (6) スポーツ健康科学基礎
健康維持・増進のために運動やスポーツがどのように役立つかを、生理学、疫学、予防医学、精神医学、社会学などさまざまな視点から捉える。
- (7) スポーツ傷害学基礎
スポーツは健康の維持・増進に役立つ一方で、スポーツによる外傷や障害を起すリスクがある。様々なスポーツ傷害の予防と治療法を学ぶ。
- (8) 健康スポーツ統計学基礎
健康やスポーツに関わるさまざまな事象をデータから捉える方法を学ぶ。
- (9) スポーツ倫理学基礎
スポーツが社会の中で多様化かつ大きな位置を占めるにつれ、さまざまな倫理的な問題が出てきた。ドーピング、ハラスメント、コマーシャリズム等の具体的な事例を用いて討議を行う。

B. 演習科目（各2単位）原則1日5時限を3日間で集中実施

演習科目はこれまでに8つの科目を用意している。3日間の集中開催により各2単位を取得できる。科目により、夏期休暇、冬期休暇あるいは3週にわたる土曜日の実施形式を取っているが、その他に、「特別演習」と称し、体育会各部毎に日程を別途定め実施することも行っている。2017年度は陸上競技部長距離部門と男子バスケットボール部に対して実施した。演習では原則グループワークを行い、演習の最後には各グループにプレゼンテーションを行う形式をとっている

(1) 地域スポーツ演習

「スポーツワークショップ」の企画・運営、省察を相模原周辺の小中学生向けに実施。前期に実施。

(2) 生涯スポーツ演習

「スポーツワークショップ」の企画・運営、省察を相模原周辺の小中学生向けに実施。前期に実施。

(3) 健康スポーツキャリア演習 A

体力測定や心身のコンディショニングのデータ測定を実施しながら分析・評価の実際を学ぶ。前期（夏期）に実施。

(4) 健康スポーツキャリア演習 B

体力測定や心身のコンディショニングのデータ測定を実施しながら分析・評価の実際を学ぶ。後期の土曜日に実施。

(5) スポーツビジネスキャリア演習 A :

健康増進やエンターテイメントなどスポーツに関わるさまざまなビジネスの実際について学び、自ら企画立案する。前期（夏期）に実施。

(6) スポーツビジネスキャリア演習 B :

健康増進やエンターテイメントなどスポーツに関わるさまざまなビジネスの実際について学び、自ら企画立案する。後期（冬期）に実施。

(7) 陸上競技部長距離部門特別演習

夏期合宿中に測定したデータ等を用いながら、チーム全体の強化方法をワークショップでディスカッションする。

(8) 男子バスケットボール部特別演習 :

シーズン終了後の3日間集中でスポーツキャリアの基礎からスポーツビジネス企画をワークショップ形式で学ぶ。

付録に2017年度に実施した陸上競技部長距離部門特別演習のプログラムと実施後のアンケート結果を示す。

9. 研究開発

これからの少子高齢化社会を乗り切るために、どのようにスポーツを活用していくかの具体的な方策は、今後さまざまな試行錯誤により発見、作り出していくものである。従って、このような最先端のプロセスを研究として実施し、それを教育に落とし込むことが真に社会の求められる人材育成のための教育プログラムには必要と考える。

AGU-SCP では現時点で3つの研究開発を実施している。一つ目は、アスリートが毎日体調（コンディショニング）をスマホで入力することにより、コーチ・トレーナー陣が選手全員の体調管理を詳細にチェックするとともに、自らがコンディショニングを整えることを目的として作られた「One-Tap Sports」の利活用に関するものである。One-Tap Sportsは株式会社ユーフォリアによって開発され、ラグビー日本代表をはじめ、既に多くのアスリートやチームに使用されているが、その利活用の方法については十分に検討されているとは言い難い。一般住民における健康維持のためへの展開も含めて今後研究していく予定である。

二つ目はアトラエ社が開発した「wevox」という組織診断ツールを応用し、スポーツチームの組織改善に役立てるための研究である。これは一人ひとりがアンケートに回答することにより、組織の強みや弱みをスコア化し、その結果を元にチーム力の強化につなげるものである。AGU-SCP では、ツールの妥当性の評価と、活用法の研究を今後行う予定である。

三つ目は、筋肉トレーニングの効果の「可視化」プロジェクトである。本学の陸上競技部長距離部門が実施している体幹トレーニングは「青トレ」として有名であるが、体幹の筋肉は外側からは見えないために、その効果は機能的に判断せざるをえない。大阪大学運動器バイオマテリアル学、整形外科の菅本一臣教授が開発した TeamLabody は、世界で初めて、生きた人間の人体の全身の筋肉・じん帯・神経・血管・骨を3Dで再現し、関節の三次元的な動きを解析したものだが、AGU-SCP では菅本教授の協力を受け、青トレを始めとした筋肉トレーニングの効果的な実践方法を開発していく予定である。

10. 地域連携

本プログラムに最終ゴールは、健康コミュニティに寄与する人材を育成することにある。従って、本プログラムの効果を評価するためには地域との連携が不可欠である。これまでの教育プログラムの中では、「地域スポーツ演習」「生涯スポーツ演習」において、地域の小中学生を対象に「スポーツワークショップ」を実施したり、「健康スポーツキャリア演習」において、地域の高齢者を対象に体力測定とそれに基づく運動処方プログラムの作成などを実施したりなどした。今後は、本学が「地方創生型大学スポーツの提案」により選定されたスポーツ庁の「大学スポーツ振興の推進事業」との連携により、地域のスポーツイベント企画と実施を教育プログラムとしていく予定である。

11. 総括と今後の課題

本プログラムは、主に本学の体育会に所属する数千名の学生を対象とするものとして開始したものであるが、残念ながら現在までの受講者は延べ数で300余名に過ぎない。その理由は、内容に関する広報活動が不十分であることと、各学部の授業との関連で受講しにくいこと、そして何よりも、社会情報学部以外の学部では正規科目としての単位取得のメリットが学生に感じられにくいこと、である。今後は講義科目においてはeラーニングを活用するとともに、全学部において単位取得のメリットを感じられるような科目としての取り扱いとなるように規定を変更する必要があるだろう。

2017年度はAOYAMA VISIONの一プロジェクトとして、主として組織体制作りと教育プログラムにより育成する人材像の概念整理を行い、教育プログラム開発の基盤を作り上げることはできたと考える。2018年度以降に全学的な取り組みへ発展させるためには上述のような課題を解決する必要があるものの、全学的な取り組みとして、実施と検証を重ねることにより、スポーツ人材のセカンドキャリア形成のみならず、一般学生がスポーツを通じて社会に貢献する人材として活躍できる教育プログラムとして完成することが期待できる。

付録)

2017年度AGUスポーツキャリアプログラム 陸上競技部長距離部門夏期演習

1. テーマ :

「自己調整と組織の最適化のためにデータをどのように活用するか」

2. 目的

昨年の演習では日々の健康状態を評価するためにどのようなデータを測定することができるのか、そのデータの意味するところは何なのかを個々人がさまざまな実際の測定を通してコンディショニングとは何か考えることを目的とした。今年度の演習では、近年開発されている健康管理のためのデータ測定および管理を効率的に行うためのアプリを活用し、より詳しく日々の体調の変化を意識することにより「自己調整」の方法を学ぶことを主たる目的とする。また、今回の演習では、個々人の評価に加え、組織の状態評価の方法についても併せて考える。

2. 日程

- 7月25日(火) 16:00~18:00 (町田寮) 一回目採血
- 8月1日(火) 18:30~19:30 (町田寮) 事前オリエンテーション
- 8月2日(水) ~8月16日(火) (菅平・妙高合宿)
安静時脈拍、体組成、睡眠データ、「OneTapSports」
-主観的健康度等測定(原則毎日) ランニング中心拍連続測定
合宿中にセミナー(佐藤、中野トレーナー予定)
- 8月23日(水) (青山学院大学相模原C0-105教室)
- 9月5日(火)、8日(金) (青山学院大学相模原C0-105教室)
「自己調整」のためのデータ分析講義・演習

第一日 8月23日(水)

① 本日の演習の目的(佐藤) 14:00-14:10

組織の状態も組織を構成する個人の心身状態の変化とともに日々変化する。組織を常に最適な状態に維持するためにはどのようにすればよいのかを考える。長距離部門の事例に基づく講義の後に、最近企業で取り入れられている組織分析ツールを実施した上で、組織マネジメントのあり方についてグループワークを行う。

② 「大学駅伝チームの経験に基づく組織マネジメントのあり方」(仮題)

(原監督) 14:10—15:10

- ③ 「企業における組織マネジメントの最近の考え方」(特別講師)
(組織診断テスト*実施も含む) 15:10—15:40
* : スポーツチーム用組織診断のための約 20 項目からなるアンケート
を受講者に回答してもらい、その場で結果を評価する予定。
(休憩 10 分)
- ④ グループワーク 15:50—16:40
6-7 名程度のグループ毎に、講義およびテスト結果を元に、使用したテ
ストの有用性についての評価を含む組織マネジメント方法を考える
- ⑤ 総合討議 (佐藤、原監督、特別講師) 16:40—17:30
各グループの意見を聞きながら総合討議を行う。

第二日 9月5日(火)、第三日9月8日(金)

測定・記録したデータを元に「自己調整」の方法を考える。例えば「どのよ
うにしたら疲労感を減らすことができるのか」「よいパフォーマンスを得るた
めに睡眠は重要か」等のテーマについてグループワークを行い、グループ毎に
発表を行う。各自測定・記録したデータは長距離部門全体で共有し、自ら分
析・評価を行うこととする。途中で下記の講義を実施する。

- ① 「全日本ラグビーチーム等における ONE TAP SPORTS 活用法について」
(橋口特別研究員)
- ② 「だるさはなぜ生じるのか」(佐藤)
- ③ 「アスリートに理想的な体型とは—その作り方トレーニングと食事」

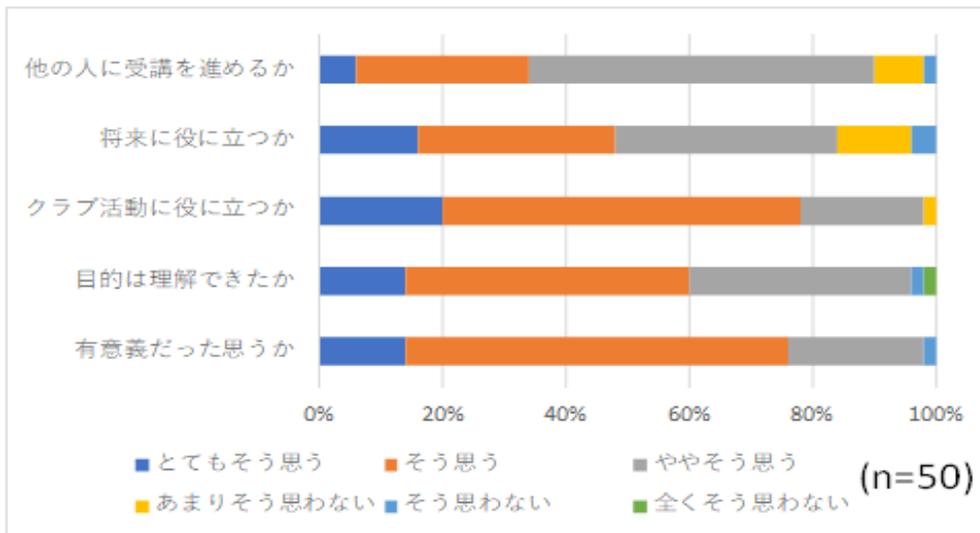


図1. 陸上競技部長距離部門特別演習」アンケート結果

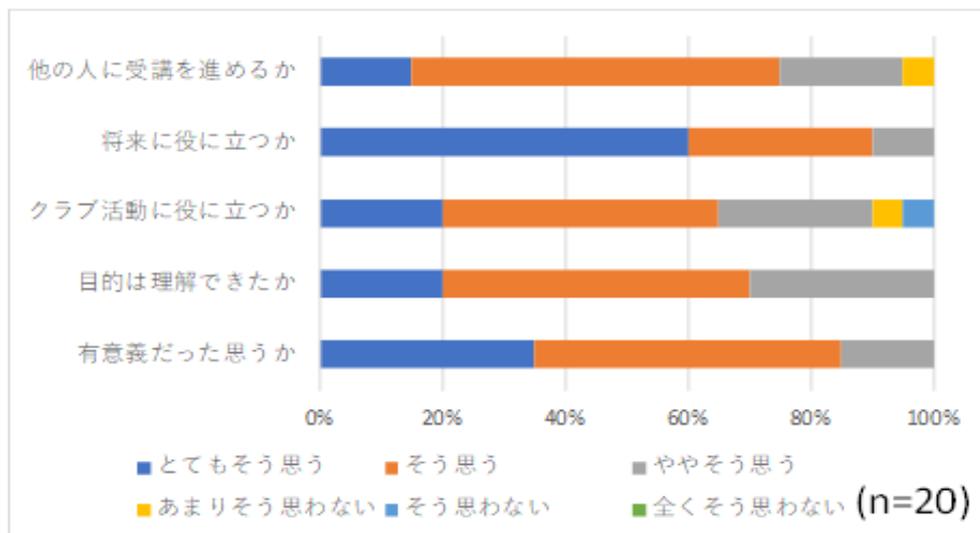


図2. 男子バスケットボール部特別演習」アンケート結果



男子バスケットボール部特別演習プレゼンテーション



健康スポーツキャリア演習 B



陸上競技部長距離部門特別演習 合宿中講義



スポーツビジネス演習 B ワーキング風景